



「天下野の凍こんにゃく」

## 水の思い出 ⑥③

世の中には便利なものがたくさんある。人々の生活をより豊かに便利にしてくれるものが次から次へと現れては、もてはやされ世の喝采を浴びる。昔、三種の神器ということばがあって、その時代の人々が最も憧れたものが3つずつ挙げられ時代を象徴した。どの家庭でもこぞってその神器を手に入れ、あたかもそれを持つことが幸せの形でもあるかのように追求めた。食べ物も実に便利になった。スーパーに行けばどんな食材でも手に入るし、料理することさえ必要のないお惣菜が所狭しと並んでいる。働いているんだから仕方がないと心の中で言い訳しつつ、常日頃スーパーやコンビニのお世話になっている。

天下野で中嶋利さんご夫妻が作っている凍こんにゃくはそんな便利さとは対極にある食べ物かも知れない。以前は高倉・天下野でも作る家が数十軒もあったそうだが今は中嶋さんだけだ。真冬の最も寒い時期に始まるその作業はまさに寒さとの戦いであり、寒さあってこそその恵みでもある。コンニャク芋から作った板状のコンニャクを切り、それをワラを厚く敷き詰めた田んぼに1枚ずつ並べ干していく。その数なんと数万枚。ただ干すだけではない。水をかけて夜間の寒さで凍らせ、朝になればまた水をかけて溶かし乾燥させ1枚ずつ裏返していく。凍結と乾燥を繰り返すこと約1ヶ月、羽のように軽く無数の気泡を持つ究極の保存食ができあがる。これを水で戻し、お煮しめなどにする。フライやてんぷらもおいしい。プリプリキュッキュとした歯ごたえ、じゅわーっとしみ出る煮汁のうまみ、力強いおいしさが心の中に広がった。天下野の気候風土と、郷土の伝統の味を絶やすまいと努力してこられた中嶋さんご夫妻の情熱が作り出した味だ。

便利なものは時にありがたい。でも便利をひとつ手に入れると本来持っていたはずの力や感性をひとつ失うような気がする。不便なものや手間ひまかかるものの中にこそ生きる力や感動する心を育ててくれるものがあるのかも知れない。

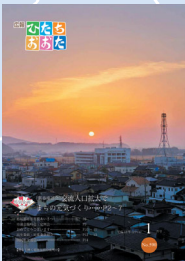
(菊池 幾子)

# 広報ひたちおおたを探る！

フォonzネットワークの大先輩「広報ひたちおおた」は600号を越えて、進化し続けています。取り上げる内容は違っても、目指しているのは同じ「伝えたい思い」です。取材でお会いした素敵な笑顔、みなさんが取り組んでいる活動の楽しさなどを、よりわかりやすく伝える広報紙について探ってきました。



## ■23年1月号



「1月号らしく朝日を狙いましたが、太陽のフレアーがよく出ていたものの雲が多く太陽が見えないため別の写真が採用となりました。」この写真を撮るため3日間早朝鯨ヶ丘から市庁舎が見える場所を探してさまよった(!)そうです。

また、別アングルで、朝日を受けて犬を散歩させているシルエット写真を載せようと、スタッフに「実家の犬を連れて来て被写体になって」と頼み、早朝待ち合わせしたものの、その職員が寝坊して待ちぼうけになったことも。「笑えないエピソードです」と話してくれました。

## まぼろしの表紙

広報発行の1ヶ月の間に取材し撮影した写真の中から表紙を飾るのはたった1枚。残念ながら表紙にはならなかったものの、広報広聴係のデータには素晴らしい写真がたくさん眠っていました。常陸太田のまぼろしのフォトアルバムです。



## ■23年8月号



広報広聴係でハッスル黄門号を追いかけ、市内色々なスポットで撮影しましたが、一番いい写真が撮れたのは駅で待っていて撮影したものだったそうです。



## ■24年11月号・12月号



11月号は、「スポーツライフを楽しもう」特集の号。動きがあって写真としてはとてもよいものが撮れたと思っていましたが、もっと多くの人々が写っているものをとの判断で別の写真になりました。12月号は、市内で開催された多彩なイベント紹介のためにカラーページを内側にも用意していましたが、あまりにも写真を多用し過ぎて見にくくなったため見送りとなりました。2枚の写真とも表情も動きもあってとてもよい写真だと思っていたので、フォンスで紹介できてうれしいです。

## ■編集会議を何度も重ねて！



表紙の写真を選ぶ広報広聴係写真担当者  
左から矢部恵二さん、大島敬一さん、檜山忠大さん

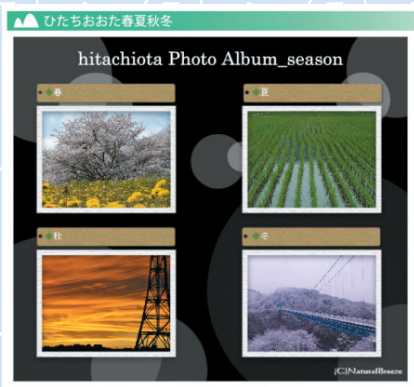
みなさんも「広報ひたちおおた」の腕章をつけカメラを下げた広報広聴係の職員を見かけたことがあるかと思います。「できるだけ多くの地域のみなさんの活動や市の良さを紹介したい」と、市内各地の地域に出かけています。広報紙は、市の事業や方向性を市民のみなさんに分かりやすく正確な情報を伝えるとともに、地域独特の行事や話題などを数多く紹介する役割があります。また、市民のみなさんとの信頼関係づくり、住民と行政とのキャッチボールだと考え、手にとってもらえ、興味をもって読んでもらえる広報紙を目指しています。そのため毎月、子育てや農業・環境などテーマを絞ってスタッフ4名が編集会議を重ねながら企画・

取材・編集にがんばっています。イベントなどで「広報ひたちおおた」の腕章をつけたカメラマンを見たら気軽に声をかけてください。そして、できれば、嫌がらず被写体になってください。

## 常陸太田の魅力を伝えようと、情報を発信する様々な方法を模索中。

### ■ 広報ギャラリーを開設

広報の表紙に載せられる写真が月に1枚という悩みから生まれたのが広報ギャラリーです。市民の皆さんの写真や風景など、広報の表紙にはならなくとも、ぜひ多くの方に見ていただきたいと、市のホームページに「広報ギャラリー」というコーナーを作りました。四季折々の美しいふるさと等がいつでも見られるようになりました。(常陸太田市→暮らし→広報→広報ギャラリー、の順にクリックしてご覧ください)



### ■ フェイスブック・ツイッターも始めました

月に一度の広報紙では伝えきれないリアルタイムの常陸太田市を伝えるため、フェイスブックやツイッターでも情報を発信しています。フェイスブックは、私たちの暮らしの生き活きとした今を伝えるという新しい情報発信方法のひとつです。その特徴を活かしている例として、研修視察先に選ばれたこともあったそうです。今まで最高の「いいね」を集めたのはこの二重の虹の写真



でした。その時、常陸太田にいた人が空にかかる虹を見つけた時に感じたうれしさを、一瞬の写真で切り取り発信したこの写真は、広報の機動力の良さと、常陸太田の「普通の暮らしの美しさ」を表しているのかもしれません。



### ■ 3連覇達成！

茨城県広報広聴課主催で実施されている「茨城県広報コンクール」は「広報紙」「ウェブサイト」「広報写真（1枚）」「広報写真（組み）」「映像」「広報企画」の6つの部門があり、県と県内44市町村の中から、一次審査・二次審査を通過した各部門5作品が県民のインターネット投票にかけられて特選（第1位）が選ばれます。「広報ひたちおおた」は平成22年度、23年度連続して「広報紙」部門特選に輝いており、24年度は「広報紙」「ウェブサイト」「広報写真（1枚）」の3部門で、インターネット投票対象5作品に選ばれ、最終審査により、広報紙部門で特選（1位）となり、ウェブサイトの部、広報写真（1枚写真）の部でも準特選に輝きました。市のホームページでも、広報紙のバックナンバーを見ることができますので、特集や各コーナーの工夫などをご覧ください。



2年連続受賞の賞状。  
3枚目の賞状を飾るスペースも、ちゃんとあります。

## てくてくウォークのすすめ

フォンスの取材で一番楽しいのは、エコミュージアムマップの紹介でした。市内に「こんな素敵な場所があったのだ」と驚きわくわくする散策コースの紹介、地元のよさを知るにはカメラをもって歩くのが一番です。現在広報でシリーズになっている「てくてくウォーク」が人気なのも頷けます！エコミュージアムマップのように持ち歩ける資料となったら嬉しいなあとか、一緒に「てくてくウォーク」を歩いてみたいな、などと一読者としてとても楽しみにしています。  
(塩原 慶子)



広報広聴かかりちょ  
広報広聴係てくてくウォーク担当者  
(自画像です)

## 映画「よみがえりのレシピ」上映会！

～おいしくて、そして心に効くドキュメンタリー映画～

一緒に映画上映に取り組んでいただけるメンバーも募集中！



この映画は、山形県の在来作物の生産者やその保存に取り組む人々を描いた、ドキュメンタリーフィルムです。戦後の高度成長に伴っての産地化や大規模流通、食生活の変化で価値を失いかけた在来作物。しかし21世紀となり農業への価値や期待も多様化し、生産性だけでなく味や安全性、機能性、加工適性など、様々な展開が可能な時代となり、改めて「在来作物」が見直されつつあります。また、在来作物の保存を通じて、地域の絆や食の伝承など文化的な価値の見直しも進んでいます。この映画から、常陸太田における食・農・産業の新たな結びつきのヒントが探れるかも知れません。全国各地で自主上映会が開かれていますが、茨城県で初の上映会です。ぜひ、足を運んでみて下さい。

「よみがえりのレシピ上映プロジェクト in 常陸太田」  
代表 布施 大樹

### プレイガイド

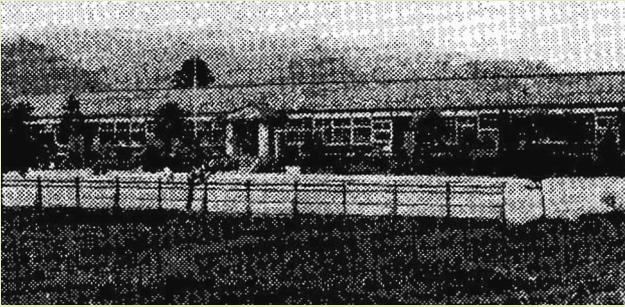
チケット発売 2月23日(土)  
パルティホール 0294-73-1234  
交流センターふじ 0294-76-2221  
水府総合センター 0294-85-0142  
里美文化センター 0294-82-2204

日 時 ■4月21日(日) 1部/13:00~14:30(開場12:30)  
2部/16:30~18:00(開場16:00)  
会 場 ■パルティホール(多目的ホール)  
常陸太田市中城町3210  
チケット ■一 般/前売1,000円 当日1,200円  
小・中・高生/前売 500円 当日 600円  
主 催 ■よみがえりのレシピ上映プロジェクト in 常陸太田  
問 合 せ ■事務局(地域おこし協力隊)  
電話 0294-82-2111(内)65

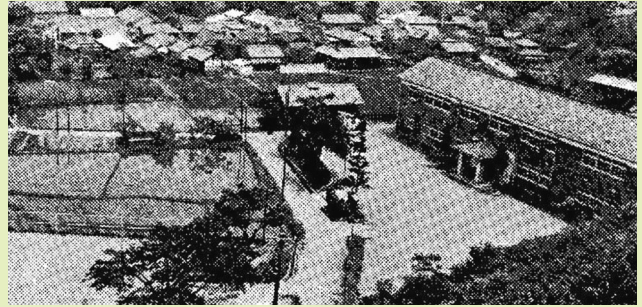


# 学び舎の思い出

高倉中学校・天下野中学校・染和田中学校・山田中学校



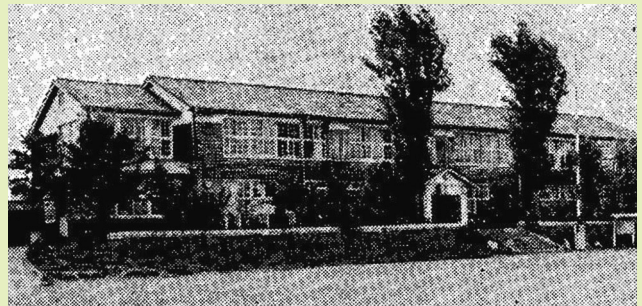
染和田中学校



天下野中学校



高倉中学校



山田中学校

小学校1年生だった頃（昭和40年）、高倉・天下野・染和田・山田中学校の統合により水府中学校新校舎を建設するため、町田の文武館付近の山を整地した事があった。夏休みの時期に3年間、陸上自衛隊（勝田駐屯地）がやって来て重機を使い山の木を取り除くなどした。重機は大型で、当時付近の道は狭かったので町屋・西河内を經由して来ていた。自衛隊の隊員は、染和田小学校を宿舎とし、小判型のヒノキのお風呂を5個ぐらい設置して入浴したり、大きな鍋で調理を行っていた。迷彩色の服や、カーキ色のジープ、トラックがとても印象に残っている。

近所に住んでいた僕たち小学生は隊員さんたちになつて、学校では禁止されていた隊員の宿舎に入れてもらってお風呂を使わせてもらったり、隊の缶詰やようかんをもらったりした。隊員が使う寝袋を生まれて初めて見たのをよく覚えている。

校舎建設2年後に水府中学校体育館も建てられ、竣工式に当時日体大の学生だった体操で有名な塚原光男夫妻が来村して、あん馬・吊り輪やマット運動を披露してくれた。（A・E）

生涯学習情報誌「フォズ」は、2~3ヶ月毎に発行し、市内全世帯に配布され、大きな宣伝効果が期待できます。ぜひご利用下さい。

◆広告を募集している情報誌

平成25年4月に発行予定の生涯学習情報誌  
「フォズ」第65号

◆広告料(1回あたり)※会長が指定するページの最下段

- ① 縦4.5cm×横 8.8cm/10,000円
- ② 縦4.5cm×横17.9cm/20,000円

問合せ

フォズ・ネットワーク事務局  
(生涯学習センター内)

TEL:0294-72-8888

URL:edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/gakushu

# 百姓母ちゃん農日記 ⑨ もんぱ便り

## 『百姓母ちゃんドイツに行く! ②』 ドイツのエコエネ生活

環境先進国といわれるドイツ。まず目に映ったのは住宅やスーパー、ガソリンスタンド、空き地といったところに設置されたソーラーパネル。ドイツは今太陽光発電では世界で一番の発電量を誇っている。訪問した酪農家宅にも住宅屋根一面にソーラーパネル。自宅ですった残りの余剰電力を20年間固定価格で売電できるので、ほぼ12年で設置費用1200万円も原価償却できる試算らしい。パネルの寿命は30年といえども、落雷で損傷したりメンテナンスなど、いろいろ大変な面もあるらしい。「ドイツは2022年には原発ゼロ、2050年には再生可能エネルギー100%にする政策を掲げているんだよ。」と、高い目標に向かい行動する国民の姿がみえた。

ファームステイで宿泊した農家は牛舎と屋根続きの

3階建て。その地下室にはなんと薪で家中の暖房と給湯ができる薪ボイラーがあった。各部屋には循環式の温水ヒーターが設置してあり、これで室内はどこもあたたか。これは森林が身近にある田舎では普及している設備のようで、地下に薪貯蔵庫と蒔き割り室まである使い勝手の良さ。

また、この村では農家90軒が共同出資してバイオマス発電施設を作っている。牛の糞尿や牧草・とうもろこし等を発酵させたガスを使った発電で、村人口の2割にあたる400世帯に電気が供給できているという。自然エネルギーに囲まれて生活できるドイツの田舎はすごいぞ!と思った母ちゃんでした。(布施 美木)



民家の太陽光パネル

### 子育て奮闘記

## 踊るママパラダイス ⑥3

昨年の10月に市民交流センターで開かれたあるイベントに参加しました。テレビ出演もしていて工作しながら子どもたちに遊びを教えてくれる方の催しでした。我が子たちが小さかった頃、私も一緒にテレビで観ていたおなじみの方でそれは大変楽しいひとときでした。

集まった子どもたちも楽しそうで、お母さん・お父さんも喜ぶ我が子の顔を見るのは嬉しかったと思います。中には席を立てて走り出してしまうお子さんもいて、ハラハラするお母さんもいたでしょうが、子どもが大きくなった私にしてみると可愛いなあと感じるコトしきりでした。私も昔はそうだったなと過ぎた日々を懐かしく思いました。

コースケはコミュニケーション能力に少し問題があって今でこそ落ち着いては来ましたが、幼い頃は「多動」もあり人の集まる場所に連れて行くのも苦痛でした。座ってられない、その事が私の気持ちを押し下げ、場所を選んで外出していました。

そのコースケも地域の特別支援学校に通ってもう3年。もうすぐ卒業です。電車を乗り継いで通うために何度も練習し、公共の場でのマナーを教え、陰から見守り「ただいま。」の声を待ちながら今があります。学校の友達と電車に乗って遊びに行くと言われたときには付き添うことまで考えましたが、担任の先生から「経験しないことは覚えません。」と諭され今では毎月のように友達と遊びに行ってます。

いろいろなことを自分で選択できる人生を歩ませたいと願っています。それには、自分で体験するということが必要なのだと言われ教えてもらっています。場所を選んで外出していた私も、少しは外に出るようになりました。

おかげさまでコースケは、春から社会人になります。職場の方々に支えてもらいながらきちんと勤めてもらいたいです。私はやはり、家において「ただいま。」の声を待っています。

—— わいわいネット 織田 裕子 ——

これを書くために「おじさん図鑑」購入



リレー  
エッセイ 「思い出の絵本」

『しろねこ しろちゃん』

～63～

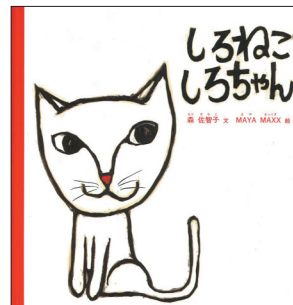
(赤土町 泉 智之)

フォonzの『思い出の絵本』をパパが書くことになった！と小学2年生になった娘に話すと、「これがいいんじゃない？」と山積みの絵本の中から手渡されたのが『しろねこ しろちゃん』でした。この絵本をいつ頃プレゼントしたかは覚えていませんが、娘が気に入ってよく見ていたのは思い出します。

4兄弟の子ネコのうち3匹はお母さんネコと同じ真っ黒ですが、自分だけ真っ白なしろちゃんは、お母さんやお兄ちゃんたちと同じ真っ黒になりたくて、ワザと泥んこになったり炭に体をこすりつけて黒くしようとします。そんなしろちゃんに何ともいじらしくて可憐な子ども心を感じます。あるとき自分だけ真っ白なのがイヤになっておうちを出てしまうのですが、それでもラストには「しろちゃん良かったね～」と思わず微笑んでしまう可愛い絵本です。

しろちゃんと同じように、人と比べて“違う”ところに抵抗を感じる方もいるようです。そしてその“違い”がキライになったり、自分の欠点だと思ってしまう人もいるかもしれません。ただ“違い”は一つの個性であり長所にもなり得ます。ましてや親から見た子という存在は色彩に関係なく、替わりになるものがない文字通り『かけがえのない』存在です。ワザと黒く汚すしろちゃんを、お母さんネコが笑みを浮かべた優しい表情でなめているところは、まさにその親の愛を表しています。

こうしてあらためて絵本を見てみると、とても深い教えや気づきがあって、子どもはもちろん大人にもためになるなぁと実感しました。このような機会を与えていただきまして、ほんとうにありがとうございます。久しぶりに娘に絵本をプレゼントしーよお。(次回は馬場町 木村 俊介さん)



ほつ  
とひといき

ネキトンボ



さん ころさん  
三鈷室山にて 2012年7月

羽の付け根が綺麗な黄色に染まったアカトンボです。常陸太田市内では10種類程度のアカトンボの仲間を見ることができます。その中でもネキトンボはあまり出会えない珍しい種に入ります。

アカトンボの代表といえば、一昔前までは、山と平地を往来するアキアカネが代表でしたが、

近年は羽の先が茶色いノシメトンボが多数派になっています。これには水田の耕作が乾田化したためと言われていました。そして最近ではノシメトンボに変わって、アカトンボ類に近縁のウスバキトンボが数を増してきているように感じます。アカトンボの世界も変化していますが、昔から、ネキトンボの仲間はごく限られたところでしか見られませんでした。皆さんの周りのアカトンボはどうか。羽の黄色いアカトンボはとても貴重です。探してみませんか。(佐々木 泰弘)

ちよつとひといき

「Sunny Sunday」



鯨ヶ丘商店街に新しく仲間入りしたオシャレな雑貨屋さん。サニサンと呼ばれ、市内外の幅広いお客さんに親しまれています。ラッピング・メモ等を綺麗に可愛く装飾できるマスキングテープの品揃えは県内一だそうです。他にも東欧や北欧からのインポート雑貨・文具・大人服などを取り扱っています。

店主の小泉正人さんは「街の思い出に、鯨ヶ丘商店街のお店、サニサンとしてお客さんの心にずっと残るお店にしていきたい」と話してくれました。作家やアーティストさんたちとの繋がりを大切にしてイベントも多く開催しています。小泉さんは「街と一緒に成長していきたい」と力強く語ってくれました。



(白石 百合乃)

- 常陸太田市東一町2295-2 TEL 0294-72-3025
- 営業時間 AM10:00～PM7:00(変更になる場合があります。)
- 定休日 木曜日・第3日曜日(変更になる場合があります。)
- ホームページ <http://www.sunny-sunday.net/>

常陸太田の地名話 ～10～

かさ 石 【常陸太田市小妻町笠石】

里美地区には江戸時代に開発された新田があり、里川新田のように大字行政区として独立したものもあるが、編入されたものも多い。「小妻の笠石」のある小妻町の笠石新田も編入された新田の一つである。開発当初は十石新田と呼ばれていたが、後に徳川光圀の命により、郡奉行岡見弥次工門が改称したという。この笠石は、新田集落のはずれにある大きな石の上にさらに笠の形をした石がのっていることから名付けられたという。また、水戸藩士小宮山楓軒の編さんした『水府志料』の附録には、笠石の絵図を掲載してその由来を説明している。笠石はその特異性から、江戸時代より地域の人々に知られていて、地名の由来になるほど深く浸透していたことがわかる。(川松 博)



地名の由来になった笠石

<参考文献>「新編常陸国誌」「茨城県地名大辞典」「里美の歴史散歩」